



協・競・響

Tutti

トゥッティ

★NIE「教育に新聞を」

12月の課題は、はやぶさに関する記事でした。(裏面参照)



「努力すること」(1組 今吉 悠翔)

新聞記事を読んで、努力することは大切だと思いました。打ち上げが成功するか分からない、もし成功しても戻ってくるか分からない探査機を上げて、打ち上げてもお努力するのは、本当にすごく大切なことだと思います。ぼくも、普段の生活や様々な場面で自分にできる努力をしていきたいと思いました。努力は裏切らないという言葉もあるので、しっかり努力していきます。

「自分の興味を力にする」(2組 草宮 廣太郎)

この計画が成功した大きな要因は、津田雄一さんたちの、物事に対する興味だと思う。目を輝かせながら中身を見るのが楽しみだと話していたことから、津田さんはこの仕事がとても大好きであることが分かる。その興味が世界の歴史、未来を大きく変えるかもしれないのである。僕たちは、今様々な仕事を知り、将来の自分のカタチを少しずつ創り上げている。世界を大きく変えることはできないかもしれないけれど、自分の好きなこと、興味のあることを基準に、将来を考えてみようと思う。

「はやぶさ2」(3組 下園 秋乃)

「はやぶさ2」は、世界で初めて小惑星内部の岩石の採取に成功したとみられているそうです。この記事を読んで、改めて宇宙の規模の大きさを実感しました。人類が誕生してから長い時間を経ても、まだ宇宙には分からないことだらけなのとワクワクする気持ちになりました。はやぶさ2が回収された後も、次のミッションがあるということで、これからの研究と次のミッションの成功がとても楽しみです。

「新しい発見」(4組 内立輪 陽斗)

津田雄一教授の新しい発見は、太陽系の成り立ち、生命の起源が挙げられる。しかし、中学2年生はこのような大規模なことにはできない。そこで、自分たちができる新しい発見は何かを考えました。すると、勉強をし、知識をより深くしていくことだと思いました。自分は、このように規模は小さくても、新しい発見をすることにわくわくするような人になりたいと思いました。

「カプセル」(5組 高城 麻羽)

私はこの新聞記事を読んで、宇宙のためにたくさんの方が関わっているのだと思いました。一つの小惑星を探査するのに打ち上げから約6年間も待ち続けないということに驚きました。そして、カプセルが回収されると、ガスが含まれているか検査したり詳細に分析したりして、そこから太陽系の成り立ちが分かり、生命の起源に迫る情報を得られる可能性があるなど、一つのカプセルで多くのことが変化していくのだと思いました。小惑星や未知を知るには、長い期間が必要なんだと思いました。

「6年間の努力」(6組 前田 心響)

私はこの記事を読んで、とても感動した。なぜなら、6年間かけて宇宙から資料を得たことが、とてもすごいと思ったからだ。たった一つのカプセルでも、たくさんの時間とたくさんの人々の想いの集大成だ。そして、このカプセルは、その努力に応えるように地球へ還ってきた。これは世界の歴史に刻まれる、とても重要で大切なことなのだろうと思った。